

花ちゃん、オー君、モンタ博士、フツ博士のくわくわくドット対立してくる

国立市立国立第七小学校

平成29年5月11日 NO.16 (416)



バス道路『第一団地』停留所近く

花ちゃん 「うわあー！きれいな花はなですね。」

オー君 「すてきな花はなですね。色もまっ白しろでいいですね。」

花ちゃん 「まるでシャンデリアのようですね。」

オー君 「そうだね。それじゃ、『シャンデリアの木き』という名前なまえにしようか。」

モンタ博士 「そうだね。自分たちでお気に入りきいの名前なまえをつけるのもいいね。」

花ちゃん 「ところで、モンタ博士。この木きの名前なまえは何なんというのですか。」

モンタ博士 「名前なまえは『エゴノキ』というんだよ。」

オー君 「あまり聞きかない名前なまえですね。」

花ちゃん 「そうね。私わたしも初はじめて見みる花はなです。」

モンタ博士 「そうかな、このエゴノキというものは、モンタ博士のおうちの近ちかくの雑木林そうきばやしではあちこちに見みられるものだけど、みんなも見みたことあるでしょう。」

オー君 「どこにあるのですか。ぼく、^み見たことありません。」

花ちゃん 「^{わたし}私も見たことありません。どこにあるのですか。」

モンタ博士 「バス道路の『富士見第一団地』の交差点の^{ところ}所、『第一団地』のバス停留所
の^{ちか}近くに^{ほん}2本あります。きのう^み見たら、^{はな}花が満開になりそうだったね。」

オー君 「エゴノキというのは、ちょっとへんな^{なまえ}名前ですね。名前には^{なまえ}どういう^い意味が
あるのですか。」

モンタ博士 「よく^き聞いてくれたね。エゴノキのエゴとは『えぐい』という^い意味で、あくが
^{つよ}強くて^{した}舌やのどを^{しげき}刺激する^{あじ}ような^み味があるからなんだ。^み実の^{かわ}皮にその『えぐ
^みみ』があり、『エゴサポニン』というものが^{ふく}含まれているんだ。」

オー君 「^{なん}何だか^{はなし}むずかしいお話を^{はなし}なってきたみたいですね・・・。」

モンタ博士 「それでは、おもしろいことを^{おし}教えてあげよう。昔の^{むかし}子どもは、この^み実を^たた
^{えきじゅう}いて^{かわ}液汁を^{なが}川に流したんだ。すると、^{さかな}魚が^か仮死^{しじょうたい}状態になり、それで^{さかな}魚を
^と取ったそうだよ。モンタ博士はまだ^{はかせ}やったことがないから、^{こんど}今度、^み実がなっ
たら^{じっけん}実験してみようと^{かんが}考えているんだ。みんなもいっしょにやってみよう。」

花ちゃん 「でも、^{さかな}魚が^{かわ}かわいそうじゃないですか。」

オー君 「^か仮死^{しじょうたい}状態というのは、^し死んじゃうわけではないから、いいんですね。」

モンタ博士 「でも、^い生き物を^{もの}むやみに、おもちゃ^{おも}みたいにあつかうのだけはやめよう。」

花ちゃん 「そうですね。今は、^{いま}きれいな^{しろ}まっ白な^{はな}すてきな^{たの}お花を楽しみましょう。」

オー君 「そうだね。そうしよう。そうしよう。」

花ちゃん 「この前は^{まえ}谷保駅前^{やほえきまえ}に^{しろ}ハナミズキが^{はな}まっ白な^さお花を^{はな}咲かせてくれたし、そし
て、今は^{いま}エゴノキだし、^{しろ}白い^{はな}花っていいですね。」

モンタ博士 「そうだね。今は^{いま}白い^{しろ}花が^{いちばん}一番だ。緑が^{みどり}濃くなってくると^{しろ}白い^{はな}花が^{めだ}目立つね。」

オー君 「^{しろ}フン！^{はな}プン！^{しろ}白い^{はな}花なんか^{きらい}きらいだよ。」

モンタ博士 「え！^{はな}どうして^{はな}きらいなの。きれいな^{はな}お花だよ。」

オー君 「ぼくは^{あかくみ}赤組だ。運動会で^{うんどうかい}勝つのは^{あかくみ}赤組だ。赤い^{あか}花が^{いちばん}一番だ！」

モンタ博士 「^{いま}そういうことか・・・。それでは、^さ今、^{あか}咲いている^{はな}赤い^{さが}花を探そう！」

to be continued